

南部町に高校はないが、高校生はいる！

南部町高校生サークル「With you 翼」



さまざまな体験をとおして高校生を支援し、まちづくりの担い手を育てる目的で設立された高校生サークル「With you 翼」。担当者である南部町教育委員会事務局人権・社会教育課おおしたまさしの天下真史さんにサークルへの熱い想いを伺いました。

南部町では、以前から「少子高齢化と人口減少」が喫緊の課題となっており、町が総力をあげてさまざまな対策を講じています。県内初となる「教育の日」条例を平成20年に制定し、11月1日を「南部町教育の日」、10月と11月を「南部町教育月間」と定め、町民の教育に対する関心を高めるだけでなく、住民参画によるコミュニティ・スクール「地域協働学校」や小中一貫による地域カリキュラム「まち未来科」に学校・地域・家庭が一緒になって取り組んでいます。

町内には高校がない！

このように教育に力を入れている南部町ですが、高校がありません。中学卒業後は米子市や境港市、日野町などの高校に進学します。時には、町外に引越しをしてしまう家庭もあります。また、高校生になると、学業や部活、塾、友だちつきあいなどで忙しくなり、地域に高校生がでてくる場が少なくなります。町の未来を託して町民が一丸となって育てた人材が、町外に出てしまう現実がありました。「なんとかしなくては！行政として中学卒業後の子どもたちに何かアプローチができないか？このまちで育った子どもたちを支援しながら、若者を地域活動にしっかりと結びつけていく仕組みをつくりたい」と天下さんは、強く思うようになったといいます。

高校生サークルを立ち上げるぞ！

そんな時、平成26年6月に県立大山青年の家で開催された「在学青年交歓の集い」に出席しました。そこで、約30年前に旧西伯町（現：南部町）で「高校生サークル」を担当していた原田さんから、旧会見町（現：南部町）には、「With you」、旧西伯町には「翼」という高校生サークルがあったと聞きました。役場に戻り、書庫を調べるとたくさんの資料や写真が残っていました。写真には、小学校で担任をした子どもの保護者やPTA会長、役場職員、南部町で起業した方などが写っていました。「驚きましたね。サークルにいた人たちの多くが、このまちに残っているじゃないか。活動により自分のまちに愛着が生まれたのかもしれない。それなら、もう一度高校生サークルをつくらなければ！」と、昔、旧溝口町（現：伯耆町）の高校生サークルに所属していた天下さんは、その当時の経験も活かして一念発起。平成26年3月に法勝寺中学校を卒業した高校1年生5名に声掛けをし、まずは試行的に活動を始めました。南部町ボランティアフェスティバルのスタッフや伯耆町の高校生とのスキー交流など、1年間で9回、延べ36名が参加しました。

高校生が集まってくると確信した天下さんは、平成27年に19名で「高校生サークル With you 翼」を立ち上げました。「子ども会育成連絡協議会」の「ジュニアリーダー組織」

として位置づけ、南部町教育委員会事務局を窓口として本格的に活動をスタートしました。

サークルには、地域から祭りへの出店やイベントの司会、田植えの手伝いなどさまざまな依頼が寄せられます。また、カヌー体験などのお楽しみイベントへの参加依頼もあり、活動は多岐にわたります。特定のメンバーに負担がかかるのを防ぐため、サークルの代表は決めていません。大下さんが地域からの依頼に基づき、2ヶ月ごとに活動予定表を作り、メンバーにグループLINEで呼び掛けて、希望する活動に自主的に参加する仕組みをとっています。

独自の国際交流事業

平成28年からは、グローバルな視点を養うために「国際交流事業」に取り組んでいます。町教育委員会での選考を経て、派遣される高校生10名程が決まります。派遣前には事前研修会があり、韓国について学びます。また、南部町国際交流協会が韓国のハンリム大学と長年交流しており、ハンリム大学の学生が南部町に滞在する間、一緒に大山登山をするなど交流を深めます。

そして、韓国に渡航後、高校生たちがハンリム大学を訪れ、南部町で出会った大学生と再会し交流します。韓国の歴史文化を学んだり、地元の生活にふれたりすることは、高校生たちにとってかけがえのない経験となります。この交流事業をとって外から南部町をみることで、高校生たちの世界観が変わり視野が広がります。

昨年度は、韓国の政情が不安定だったため、宮城県で震災復興のまちづくりについて学びました。震災直後に被災地でボランティアをした方の話を事前に聞いた後、持参したドングリの苗木を被災地に植樹したり、被災した宮城県の高校生に話を聞いたりしました。今年は8月に再び韓国に渡航し、交流を深めました。



日本オオサンショウウオの会南部町大会で「なんぶヌル丸焼き」のお店を出店



町主催の「パスタスクール」の参加者と一緒にパームクーヘンづくり



中学生のテスト前勉強会に参加



地域の方と一緒に田植えで交流



韓国の大学生が南部町でホームステイ。ホストファミリーと一緒に、ハイ・キムチ〜



韓国の大学生と大山登山



韓服体験、景福宮をバックにハナ・トゥ・セ！（1・2・3！）



国立春川博物館で大学生と一緒にワークショップ



事前学習：被災地（宮城県）でボランティアをした方から話を聞く



実際に被災地（宮城県）へ行き、防潮堤に自らの足で立つ

国際交流事業に参加した高校生の感想

- 韓国で交流した学生が親切にしてくださり感謝の気持ちでいっぱいです。ハンリム大学の学生さんたちのおかげで、とても充実した研修になりました。日本に帰りたくないくらい別れがつかったし、韓国がさらに好きになりました。
- 自分の進路がどうであっても、これからの自分にプラスになると思います。絶対にもう一度行きたいです。思い出だけで涙が出そうです。
- 言葉が違ってても伝わることや感じることはたくさんあり、とにかく人の温かさを学びました。

電子メディアとの付き合い方を自ら啓発

電子メディアとの付き合い方を高校生目線で啓発するというユニークな取組も始めました。高校生は、学校から啓発チラシを山ほど持ち帰りますが、ほとんど読みません。「実際に被害に遭った子どもたちはたくさんいるのに、いつも啓発を受ける側。それなら自分たちが発信する側になろう！」と、困っていることや今気をつけていること、親との約束などを盛り込んだチラシを作り、町内の中学校に配布しました。保護者からは、「高校生目線で具体的に書いてあり共感できた。子どもに携帯を持たせようか迷っていたので参考になった」など、大好評でした。

そして、県教育委員会が主催する「平成 29 年度とっとり電子メディアとの付き合い方コンクール」に応募したところ、高校生が学校ではなく地域活動で取り組んでいることが高く評価され、教育長賞を受賞しました。

サークル卒業生が新☆青年団を立ち上げ

「サークル活動をとおしているいろいろな人に出会い、いろいろな体験をすることで、心の豊かな人間になってほしい」と心から願う大下さん。活動を始めて3年が経過。人前でお話することに抵抗がなくなったり、言葉遣いに気をつけたり、イベントの手伝いなどでは率先して片づけができるようになるなど、高校生に少しずつ変化が見られます。

高校生が中学校に出向き、3年間のサークル活動を直接中学生に伝え、勧誘したこともあって、平成 29 年度にはメンバーの総数が 39 名になりました。年間 55 回の活動に延べ 315 名が参加。地域の方にもサークルが認知されつつあり、「With you 翼と書いた水色のジャンパーを着た高校生をよく見るようになった」「自分が高校生の時にサークルがあったら、絶対参加したのに」「我が子に入らしたい！」など、応援の声も届きます。

平成 26 年から活動に関わってきた高校生たちが、成人し社会人になりました。「高校生サークルでできた仲間とのつながりがなくなってしまうのはもったいない」と、サークル卒業生と成人式実行委員会メンバーが中心となり、平成 29 年 7 月に「新☆青年団へん to つくり」(へんとつくり)を発足しました。高校生サークルを経て、地域を活動のステージにして、楽しみながら若者の夢や希望を実現するために挑戦中です。南部町の未来を担う若者の活動へと確実につながっています。



電子メディアの啓発チラシを作成し、町内の中学校に配布



南部町 PTA 連絡協議会研修会で、電子メディアの啓発活動を紹介



「新☆青年団へん to つくり」のメンバー



今年は、米作りに挑戦しています！

仲間募集中！！

南部町教育委員会事務局 人権・社会教育課
担当：大下さん

TEL (0859)64-3782 FAX (0859)64-2183

町内小中学校の卒業生及び町内在住の高校生年代の人は誰でも加入できます。(保護者の同意は必要)